

投資者の皆さまへ  
(販売用資料)

(2018年4月作成)

# 日本高配当株フォーカス

## マイルドジャパン

追加型投信/国内/株式/特殊型(絶対収益追求型)

## プレミアジャパン

追加型投信/国内/株式

※課税上は株式投資信託として取扱われます。

投資信託説明書(交付目論見書)のご請求・お申込み

### 大和証券

Daiwa Securities

<販売会社>

商号等

大和証券株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第108号

加入協会

日本証券業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

一般社団法人金融先物取引業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会

設定・運用

資産運用のベストパートナー、だいわすみぎん



### 大和住銀投信投資顧問

Daiwa SB Investments

<委託会社>

商号等

大和住銀投信投資顧問株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第353号

加入協会

一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

<当資料のお取扱いに関するご注意>

お申込みの際には、最新の「投資信託説明書(交付目論見書)」等を必ずご覧ください。

■当資料は、大和住銀投信投資顧問が作成した販売用資料です。■当資料内の運用実績等に関するグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。■当資料のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■当資料は各種の信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託は預金、保険契約ではありません。また、預金保険機構及び保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。■銀行など登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。

# ファンドの魅力

## 魅力

**1** わが国の高配当株式に投資を行うとともに、株式市場の変動リスクをヘッジしない「プレミアアジア」と、ヘッジする「マイルドジャパン」の2つのファンドからお選び頂けます。

(イメージ図)



- 2つのファンド間でスイッチングが可能です。

## 魅力

**2** 運用は国内株式の運用で定評がある大和住銀投信投資顧問が行います。

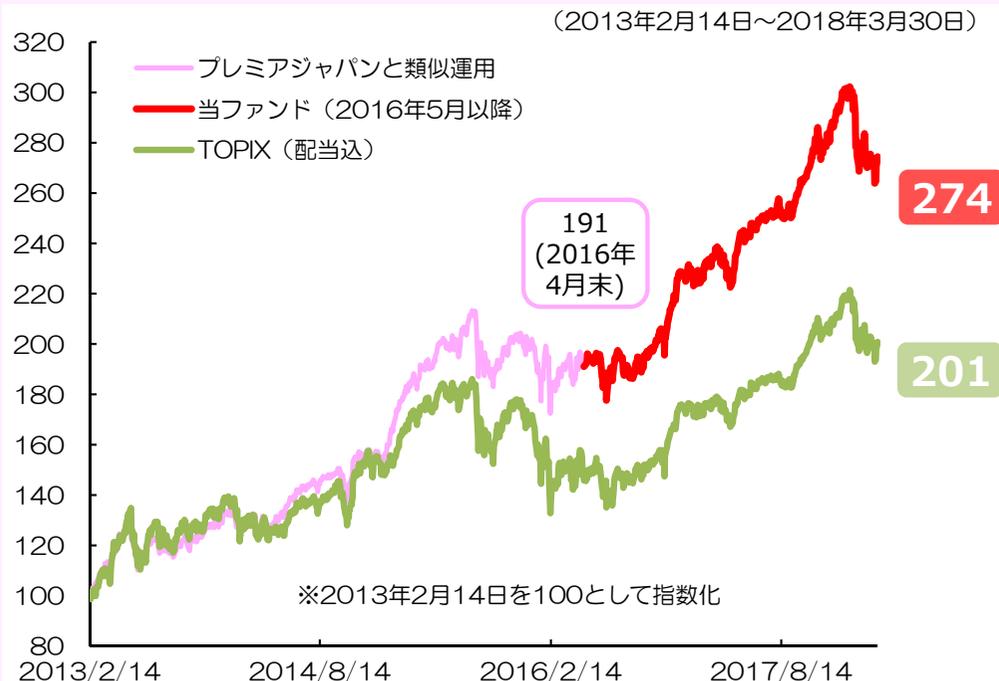
- 株式部分の運用は、相対的に高い配当利回りに加え、配当の持続可能性等を勘案したアクティブ運用により銘柄選定を行います。
- 大和住銀投信投資顧問株式会社は、1973年に設立され、年金や投資信託の運用で定評があります。また、豊富な経験を有する優れた実績を持つ運用チームが当ファンドの運用を行います。

※資金動向、市況動向、残存元本等によっては、あるいはやむを得ない事情が発生した場合などには、上記のような運用ができない場合があります。

# 代表的な指数とのパフォーマンス比較

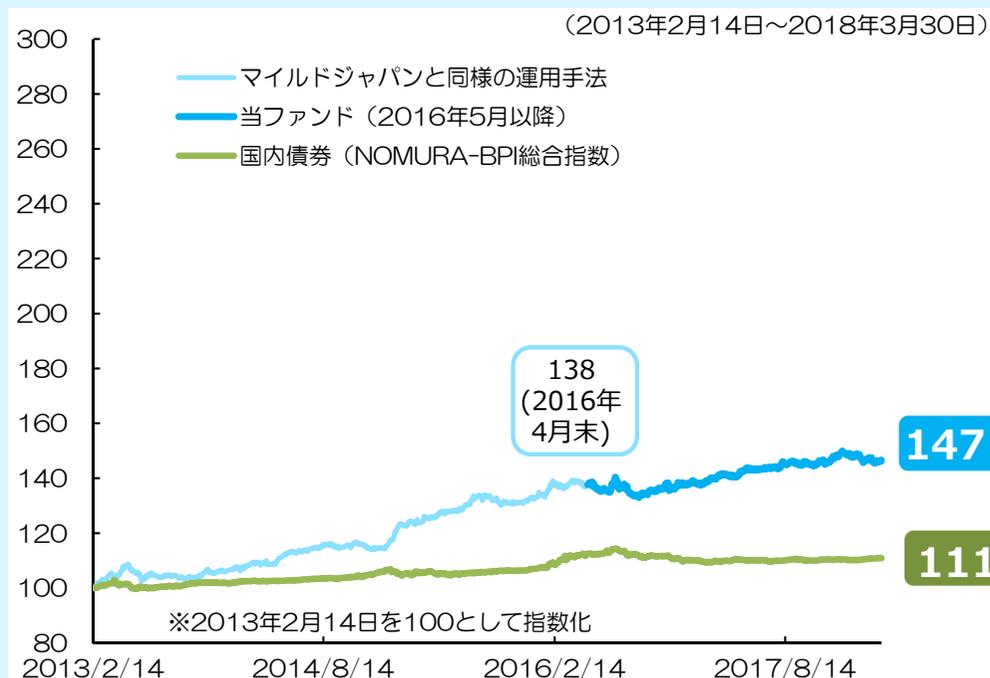
## プレミアジャパン

- プレミアジャパンと類似運用（2016年5月以降は当ファンド）のパフォーマンスは、TOPIXのパフォーマンスを上回って推移しています。
- 超低金利下の環境では引き続き良質な高配当銘柄の優位性が継続すると考えられることから、「プレミアジャパン」の戦略を通して積極的な株式投資収益の獲得を目指します。



## マイルドジャパン

- マイルドジャパンと同様の運用手法（2016年5月以降は当ファンド）のパフォーマンスは、国内債券のパフォーマンスを安定的に上回って推移しています。
- 収益の源泉を金利以外に求める「マイルドジャパン」の戦略は、超低金利下での運用難に対し、国内債券の代替商品として安定した収益の獲得を目指します。



※「プレミアジャパンと類似運用」は「国内高配当株マザーファンド」の運用実績を使用したものです。また、「マイルドジャパンと同様の運用手法」は、「国内高配当株マザーファンド」の運用実績を使用し、当ファンドと同様の運用手法をもとに算出したものです。なお、2016年5月以降のパフォーマンスは、各ファンドの実際の運用実績を掲載。  
 ※「国内高配当株マザーファンド」は各ファンドのマザーファンドではありません。※信託報酬・手数料、税金等は考慮していません（2016年5月以降は信託報酬控除後）。  
 ※TOPIX（配当込）および国内債券（NOMURA-BPI総合指数）は各ファンドのベンチマークではありません。※上記のいずれの図表も、各ファンドの将来の運用成績を示唆または保証するものではありません。

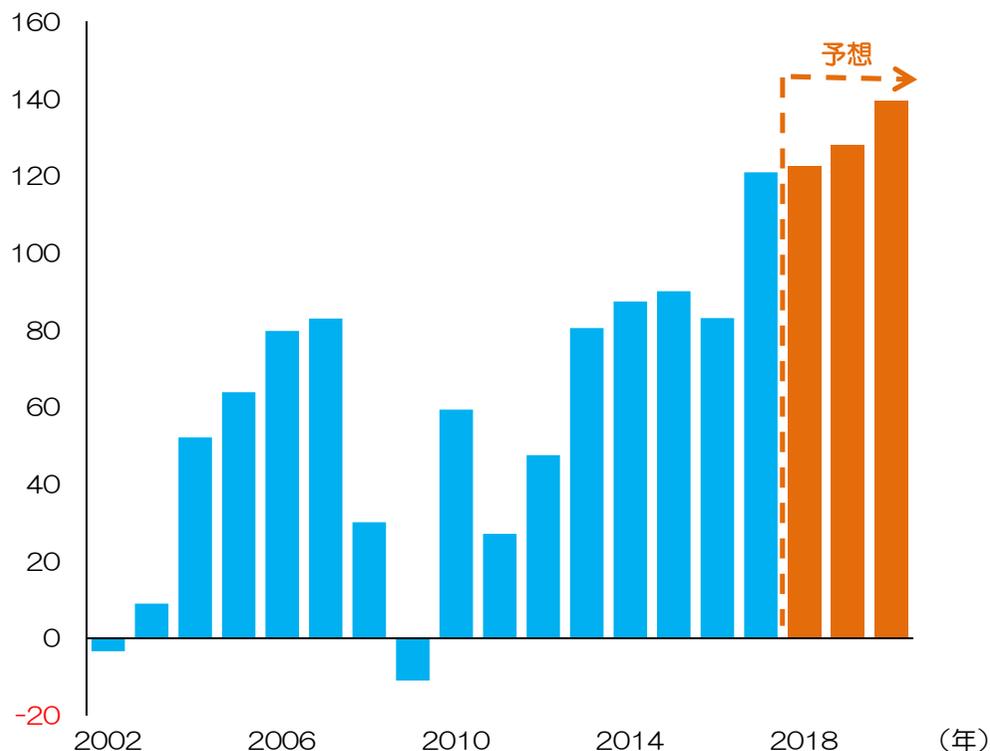
Bloomberg等のデータをもとに大和住銀投信投資顧問作成

# 増配を背景に注目度が高まる高配当株式投資

- 景気の回復傾向を背景に、企業の配当金は増加傾向で推移しています。TOPIXの1株当たり利益（純利益ベース）は2018年以降も堅調に推移すると予想されており、今後も増配傾向が継続すると期待されます。
- また、堅調な企業業績を背景に企業の現金・預金などの手元資金は拡大しており、低金利環境下においてその活用方法が注目されています。効率的な企業経営や株主還元の積極化により、増配などの動きが一層強化されると予想され、高配当株式がより注目されると期待されます。

## TOPIXの1株当たり利益（純利益ベース）の推移

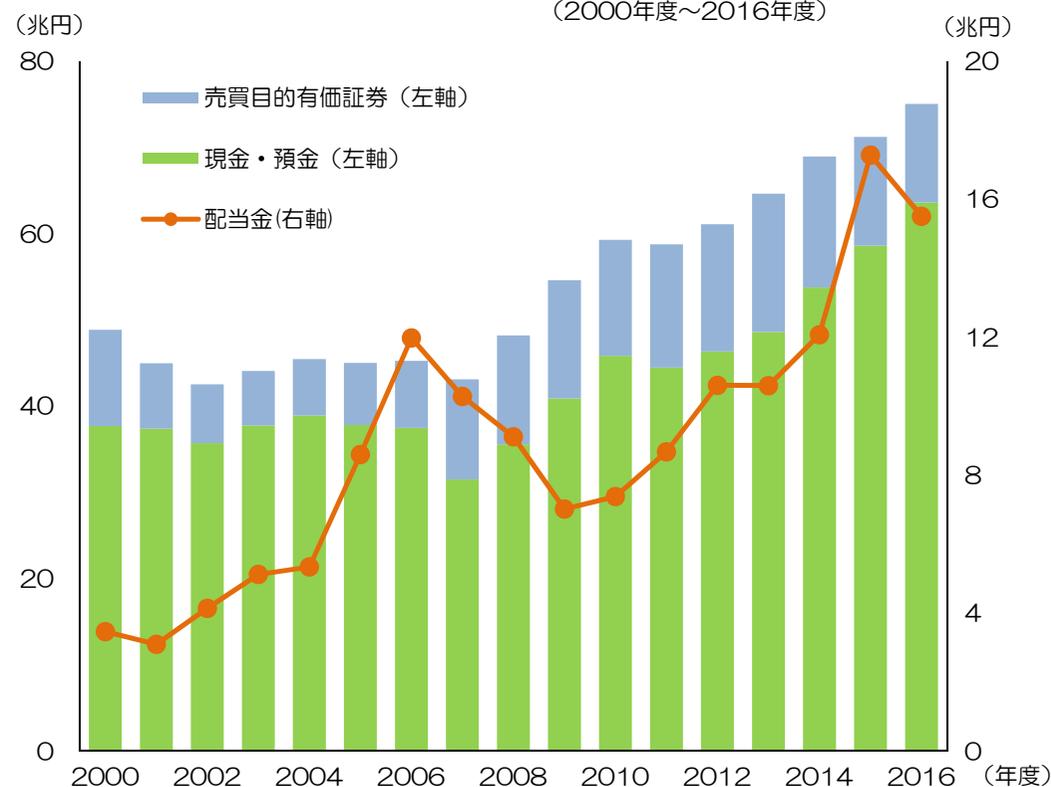
(2002年~2020年)



※2018年~2020年は2018年4月時点のBloomberg予想

## 企業の配当金、現金・預金などの推移

(2000年度~2016年度)



※金融・保険を除く全産業、資本金10億円以上

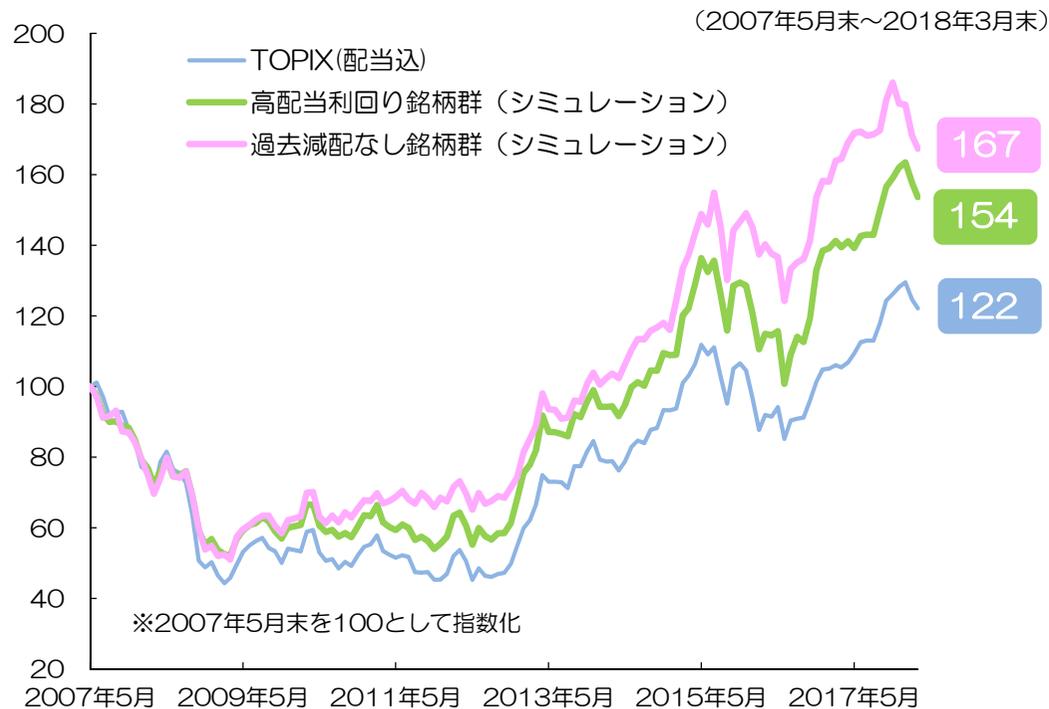
Bloombergのデータをもとに大和住銀投信投資顧問作成

財務省のデータをもとに大和住銀投信投資顧問作成

# 高配当株式運用の特徴について

- TOPIX構成銘柄の中で、高配当利回り銘柄群で構成したポートフォリオのパフォーマンスは、TOPIXを上回って推移しています。
- さらに高配当株式運用においては、個別銘柄の調査・分析を綿密に行うことで、より高い投資収益を獲得できると考えます。  
例えば、過去減配のない銘柄群に絞ったポートフォリオのシミュレーションでは、単純な高配当利回り銘柄群のパフォーマンスを上回って推移しており、銘柄選別の重要性が確認できます。

## 銘柄選別の重要性（シミュレーション比較）



※上記のグラフにおけるTOPIX以外のパフォーマンスは、高配当株式投資のパフォーマンス推移をイメージいただくために行ったシミュレーションです。

※高配当利回り銘柄群：TOPIX構成銘柄の中で、予想配当利回りが上位1/5に属するポートフォリオのパフォーマンス  
※過去減配なし銘柄群：TOPIX構成銘柄の中で、予想配当利回りが上位1/5に属し、かつ、過去10期にわたり減配なし（本決算ベース）に属するポートフォリオのパフォーマンス

Bloomberg等のデータをもとに大和住銀投信投資顧問作成

## 「高配当株式投資」で重要なポイント

(イメージ図)

株価上昇が期待される高配当銘柄の主な選別条件

配当の  
継続性の  
見極め

業績予想  
の精度、  
資本政策  
の見極め

株主還元  
に対する  
姿勢の  
見極め

様々な角度からのリサーチ

個別銘柄  
の状況

マクロ  
経済状況

業界動向

政治・政策  
の動向

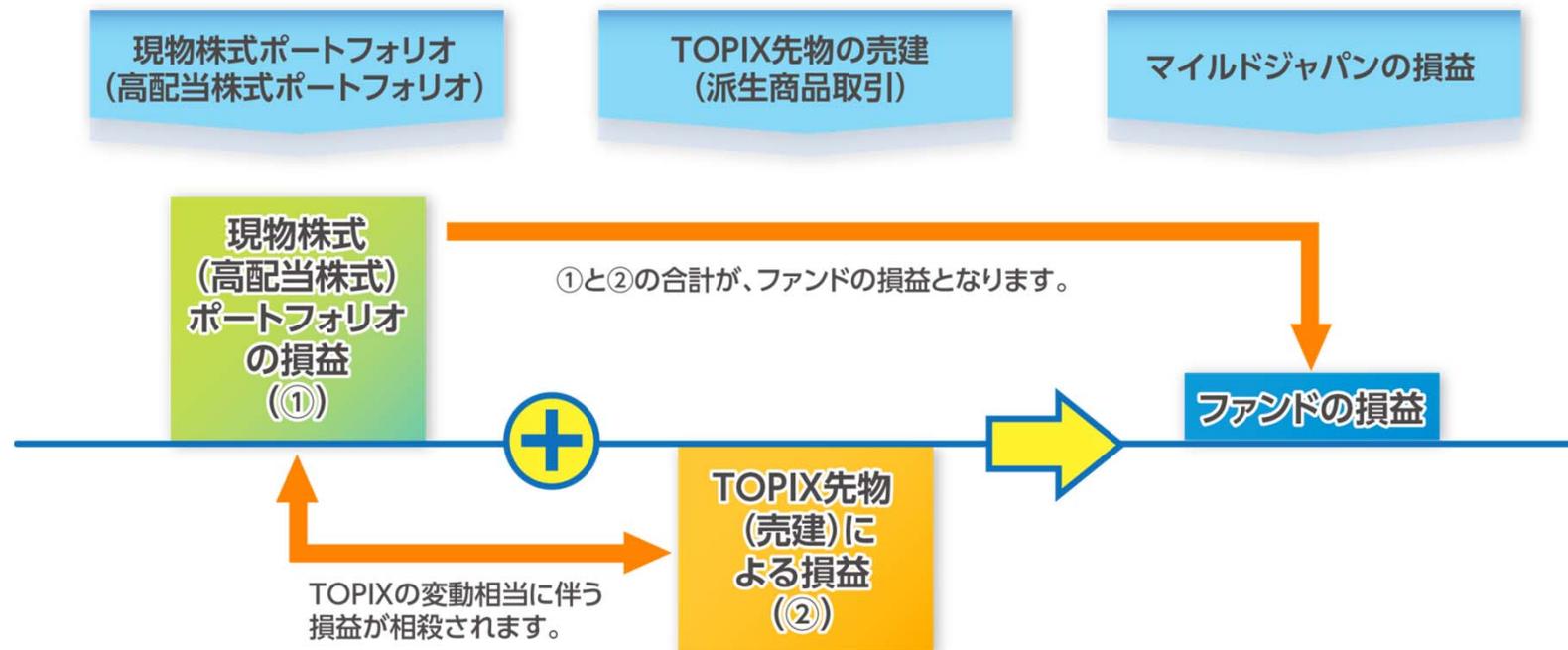
など

# マイルドジャパンの運用の仕組み

- 当ファンドの株式ポートフォリオが株式市場全体の動き（TOPIX）に影響を受ける度合を推定し、それに相当するTOPIX先物を売建てます。
- ファンドの損益は組み入れた現物株式（高配当株式）ポートフォリオの損益とTOPIX先物（売建）の損益の合計となります。

## マイルドジャパンの戦略のイメージと収益の源泉

(イメージ図)



市場の変動リスクを先物を売建てることでヘッジします。

(①+②>0の場合、ファンドの収益となります。①+②<0の場合、ファンドの損失となります。)

※当ファンドは、現物株式（高配当株式）ポートフォリオとTOPIX先物の売建ての金額を等価として運用するものではありません。

※TOPIX先物取引以外の派生商品取引を活用する場合があります。

※資金動向、市況動向、残存元本等によっては、あるいはやむを得ない事情が発生した場合などには、上記のような運用ができない場合があります。

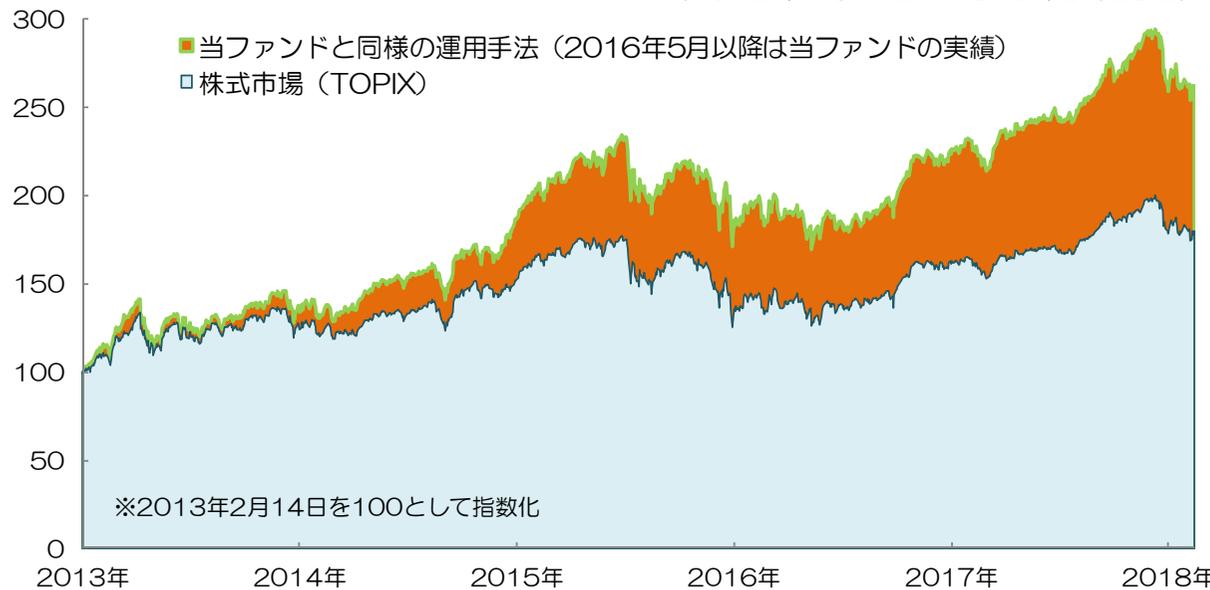
※信託報酬・手数料、税金等は考慮していません。

# マイルドジャパンの運用戦略

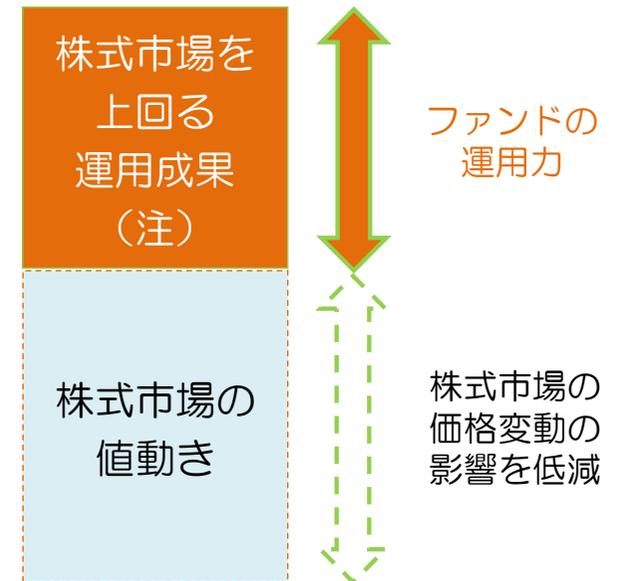
- “国内株式市場の価格変動の影響を抑制” し、「収益の安定的な積み上げ」を目指す運用戦略です。
- 当ファンドの運用戦略は、現物株式と株価指数先物取引の売建てを組み合わせることによって、株式市場の変動リスクを低減し、安定的な収益の確保を目指します。その結果、株式市場を上回る収益が当ファンドの安定した収益の源泉となります。

## マイルドジャパンの運用戦略の収益イメージ（シミュレーション）

（2013年2月14日～2018年3月30日）



収益のイメージ



（注）運用成果は株式市場（TOPIX）を下回り損失となる場合があります。

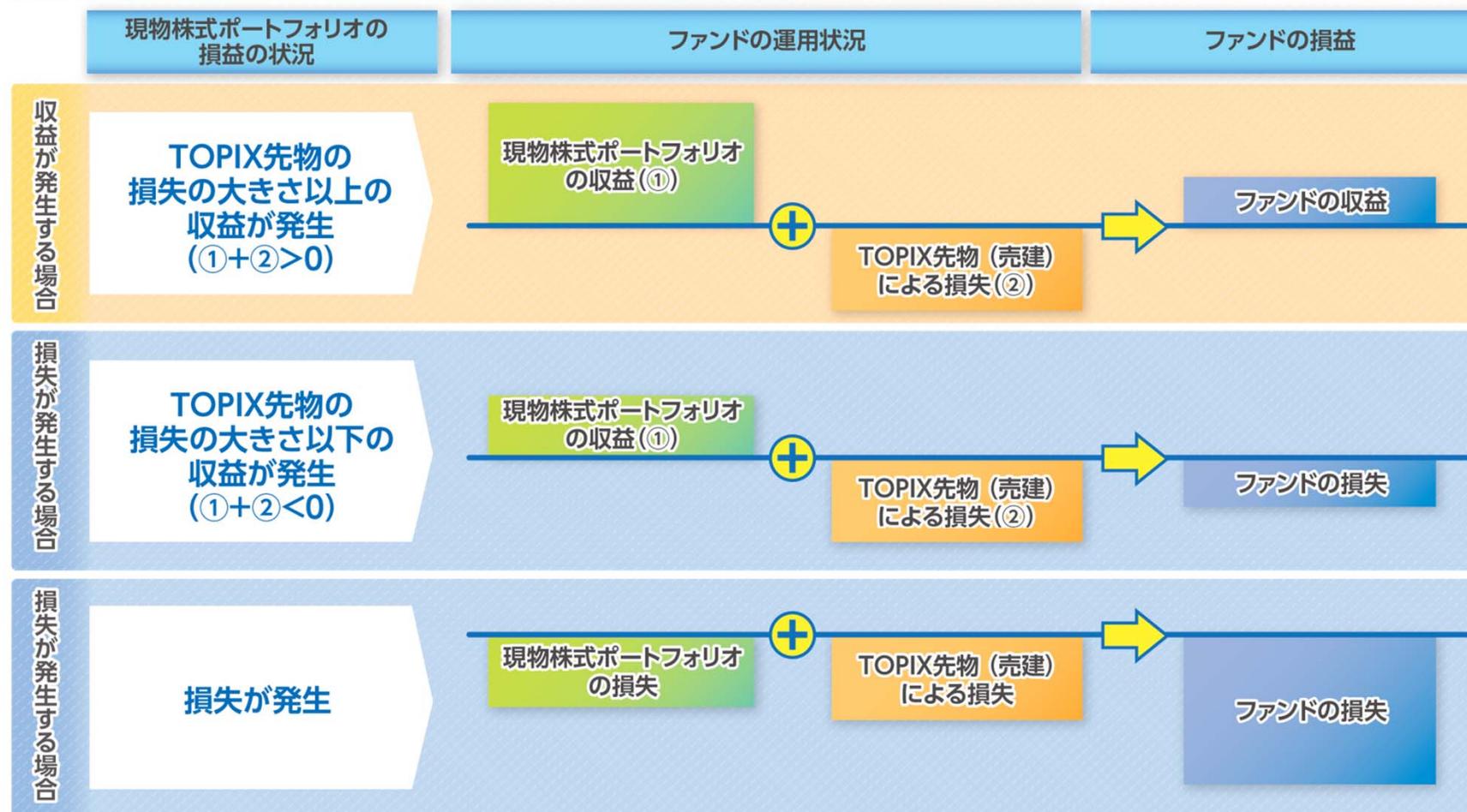
※「当ファンドと同様の運用手法」は、「国内高配当株マザーファンド」の運用実績を使用し、当ファンドと同様の運用手法をもとに算出したものです。なお、2016年5月以降のパフォーマンスは、当ファンドの実際の運用実績とTOPIXから推計。※「国内高配当株マザーファンド」は当ファンドのマザーファンドではありません。※信託報酬・手数料、税金等は考慮していません（2016年5月以降は信託報酬控除後）。※株式市場（TOPIX）は当ファンドのベンチマークではありません。※上記は、当ファンドの将来の運用成績を示唆または保証するものではありません。  
Bloombergのデータをもとに大和住銀投信投資顧問作成

- 上記の「収益のイメージ」は、当ファンドの運用戦略を説明するためのイメージであり、株式市場（TOPIX）を上回る運用成果の場合を示したものです。なお、TOPIXの上昇・下落にかかわらずTOPIXを下回る運用成果の場合は損失を被ります。
- 当ファンドは、現物株式（高配当株式）ポートフォリオとTOPIX先物の売建ての金額を等価として運用するものではなく、また、完全に株式市場の変動リスクを排除できるものではありません。
- TOPIX先物取引以外の派生商品取引を使用する場合があります。
- 実際の運用にあたっては、運用管理費用等の費用がかかります。
- 詳しくは、「投資信託説明書（交付目論見書）」の「株価変動等のリスクヘッジに関わる留意点」をご覧ください。

# (ご参考) マイルドジャパンで収益・損失が発生するケースについて

(イメージ図)

## 株式市場(TOPIX)が上昇するケース



※上記は、株式市場の価格変動リスクをヘッジした場合の「収益・損失が発生するケース」の説明の一部であり、すべてを網羅したものではありません。また将来の投資成果や分配金水準を保証・示唆するものではありません。

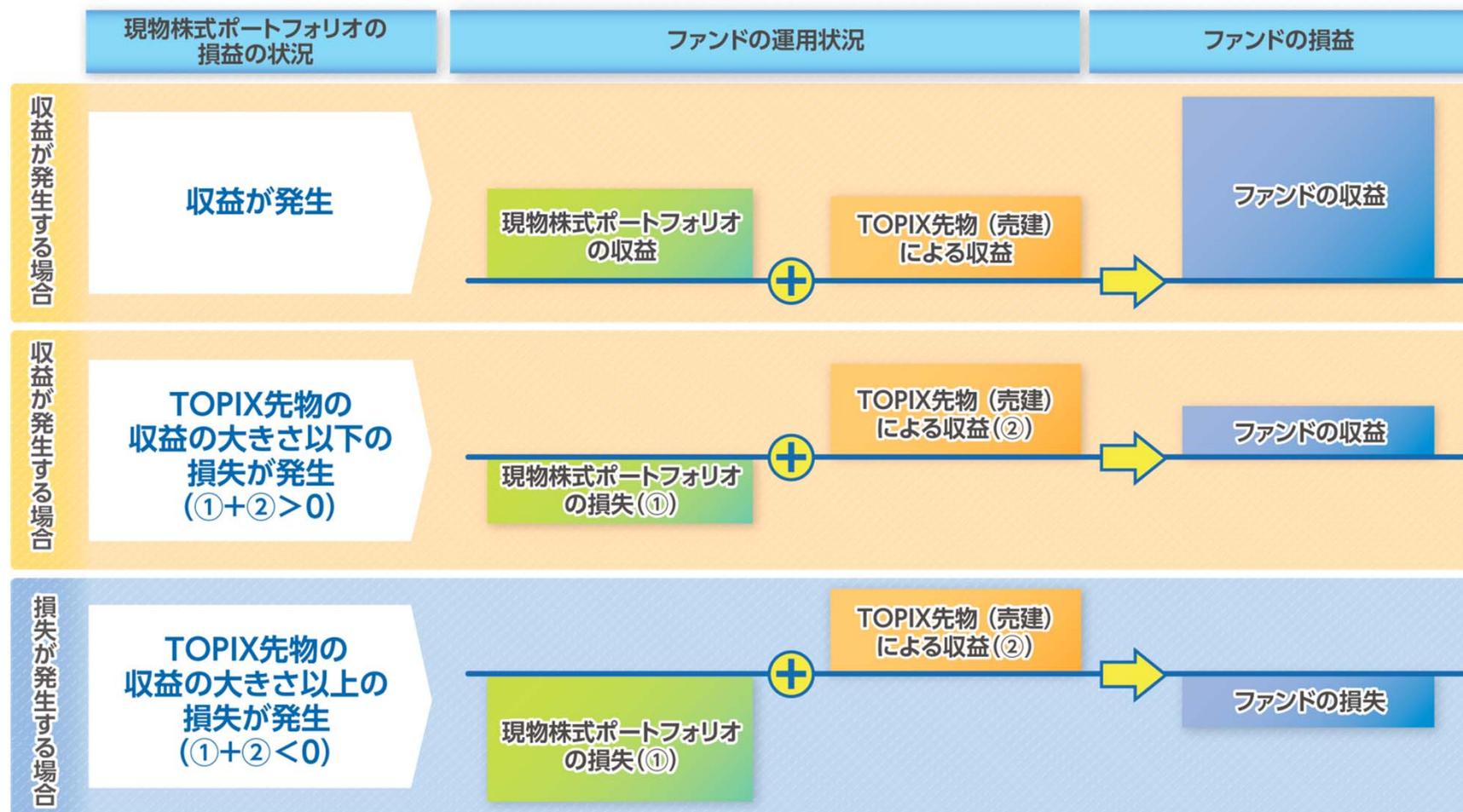
※TOPIX先物取引以外の派生商品取引を活用する場合があります。

※信託報酬・手数料、税金等は考慮していません。

# (ご参考) マイルドジャパンで収益・損失が発生するケースについて

(イメージ図)

## 株式市場(TOPIX)が下落するケース



※上記は、株式市場の価格変動リスクをヘッジした場合の「収益・損失が発生するケース」の説明の一部であり、すべてを網羅したものではありません。また将来の投資成果や分配金水準を保証・示唆するものではありません。

※TOPIX先物取引以外の派生商品取引を活用する場合があります。

※信託報酬・手数料、税金等は考慮していません。

# ファンドの特色

1

わが国の株式を実質的な投資対象とし、株式市場の変動リスクのヘッジを行う「マイルドジャパン」と、ヘッジを行わない「プレミアジャパン」の2つのファンドからお選びいただけます。

## マイルドジャパン

マイルドジャパン・マザーファンドを通じて、わが国の株式へ投資するとともに、株価指数先物取引等の派生商品取引の活用により、株式市場の変動リスクの低減を図ります。

## プレミアジャパン

プレミアジャパン・マザーファンドを通じてわが国の株式へ投資し、株式市場の変動リスクのヘッジは行いません。

- 2つのファンド間でスイッチングが可能です。

2

わが国の株式の運用にあたっては、綿密な銘柄調査を行うことで、相対的に高い配当利回りに加え、配当の持続可能性等を勘案した銘柄選定を行います。

3

毎年4月26日（休業日の場合は翌営業日）の決算時に収益の分配を目指します。

- 分配対象額の範囲は、経費控除後の利子・配当収益および売買益（評価損益を含みます。）等の範囲内とします。
- 収益分配金は、基準価額水準、市況動向等を勘案して、委託会社が決定します。ただし、分配対象額が少額な場合等には分配を行わないことがあります。
- 将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

※資金動向、市況動向、残存元本等によっては、あるいはやむを得ない事情が発生した場合などには、上記のような運用ができない場合があります。

# プレミアムジャパンの運用状況（2018年3月末現在）

## 基準価額と純資産総額の推移



### 基準価額

12,985円

### 純資産総額

6億円

<基準価額騰落率>		<分配金>	
期間	ファンド	決算	分配金
1ヶ月	-2.2%	第1期 (2017/4)	1,200円
3ヶ月	-6.1%		
6ヶ月	3.5%		
1年	18.8%		
設定来	43.9%	設定来	1,200円

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果をお約束するものではありません。

※基準価額は信託報酬控除後のものです。分配金再投資基準価額とは、収益分配金（税引前）を決算日に再投資したものとみなして修正した価額です。

※基準価額騰落率は分配金再投資基準価額をもとに算出・表示。騰落率は実際の投資家利回りとは異なります。

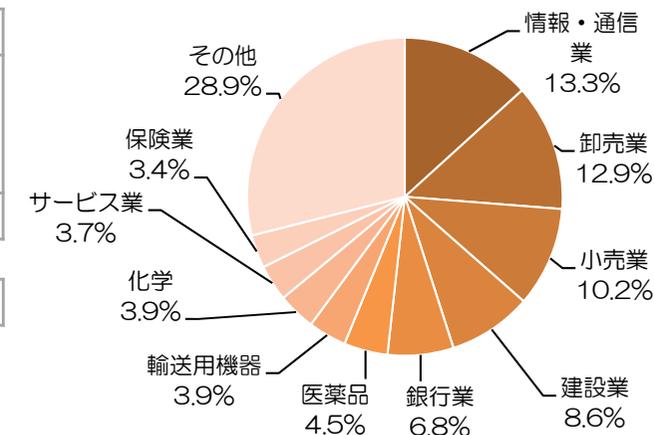
※収益分配金は税引前1万口あたりの金額です。分配対象額が少額な場合等には分配を行わないことがあります。

## 資産別構成

組入資産	比率
株式現物	85.9%
株式先物等	12.6%
短期金融商品等	1.5%
合計	100.0%

実質株式組入比率	98.5%
----------	-------

## 業種別構成



## 組入上位銘柄

(組入銘柄数 90銘柄)

	コード	銘柄名	業種	組入比率
1	9432	日本電信電話	情報・通信業	4.3%
2	7267	本田技研工業	輸送用機器	3.1%
3	1951	協和エクシオ	建設業	2.6%
4	7751	キャノン	電気機器	2.6%
5	5020	JXTGホールディングス	石油・石炭製品	2.4%
6	8252	丸井グループ	小売業	2.4%
7	8282	ケースホールディングス	小売業	2.3%
8	8001	伊藤忠商事	卸売業	2.2%
9	8053	住友商事	卸売業	2.2%
10	8766	東京海上ホールディングス	保険業	2.2%

※資産別構成、組入上位銘柄の比率は純資産総額対比、業種別構成は保有現物株の時価総額対比。

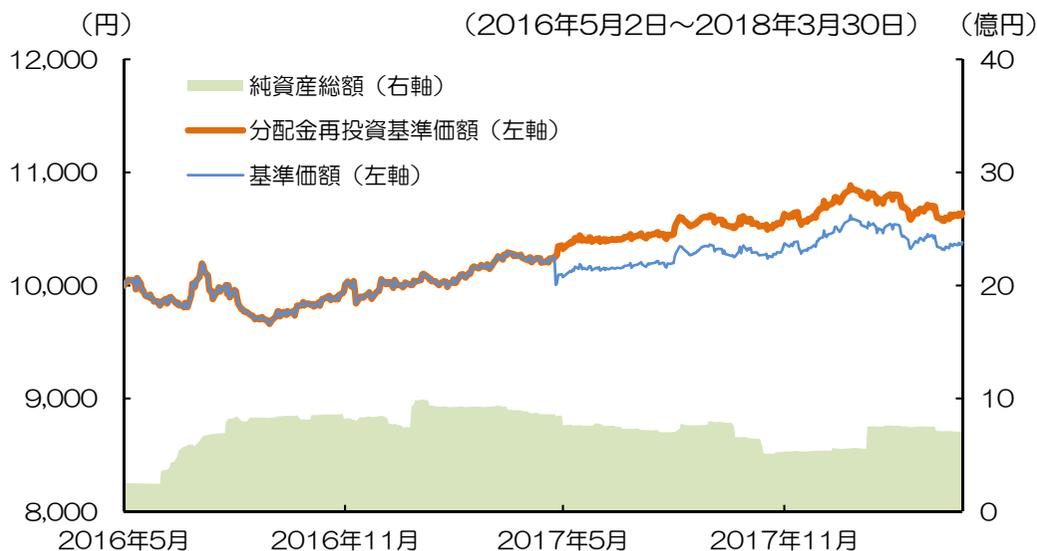
※業種は東証33業種分類。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果をお約束するものではありません。

※四捨五入の関係上、合計が100%にならない場合があります。

# マイルドジャパンの運用状況（2018年3月末現在）

## 基準価額と純資産総額の推移



基準価額

10,382円

純資産総額

7億円

### <基準価額騰落率>

期間	ファンド
1ヶ月	-0.4%
3ヶ月	-2.0%
6ヶ月	0.3%
1年	4.0%
設定来	6.4%

### <分配金>

決算	分配金
第1期 (2017/4)	250円
設定来	250円

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果をお約束するものではありません。

※基準価額は信託報酬控除後のものです。分配金再投資基準価額とは、収益分配金（税引前）を決算日に再投資したものとみなして修正した価額です。

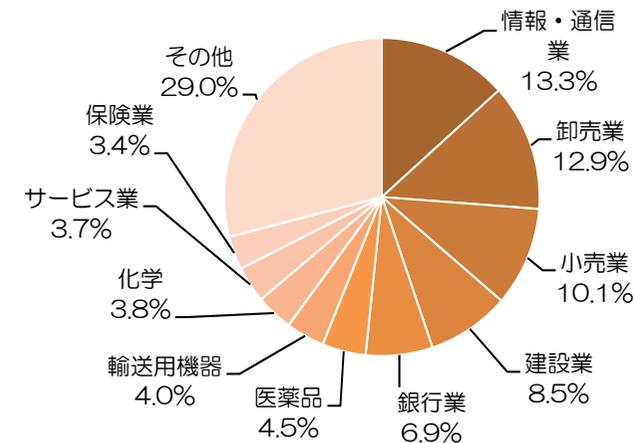
※基準価額騰落率は分配金再投資基準価額をもとに算出・表示。騰落率は実際の投資家利回りとは異なります。

※収益分配金は税引前1万口あたりの金額です。分配対象額が少額な場合等には分配を行わないことがあります。

## 資産別構成

組入資産	比率
株式現物	79.3%
短期金融商品等	20.7%
株式先物等	-70.4%

## 業種別構成



## 組入上位銘柄

(組入銘柄数 90銘柄)

	コード	銘柄名	業種	組入比率
1	9432	日本電信電話	情報・通信業	4.0%
2	7267	本田技研工業	輸送用機器	2.8%
3	1951	協和エクシオ	建設業	2.4%
4	7751	キャノン	電気機器	2.4%
5	8252	丸井グループ	小売業	2.2%
6	5020	JXTGホールディングス	石油・石炭製品	2.2%
7	8282	ケーズホールディングス	小売業	2.1%
8	8001	伊藤忠商事	卸売業	2.0%
9	8766	東京海上ホールディングス	保険業	2.0%
10	8053	住友商事	卸売業	2.0%

※資産別構成、組入上位銘柄の比率は純資産総額対比、業種別構成は保有現物株の時価総額対比。

※業種は東証33業種分類。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果をお約束するものではありません。

※四捨五入の関係上、合計が100%にならない場合があります。

# 投資リスク①

- 当ファンドは、マザーファンドを通じて、実質的に株式など値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資家の皆様の投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。
- 信託財産に生じた利益および損失は、すべて受益者に帰属します。
- 投資信託は預貯金と異なります。
- お申込みの際には、販売会社からお渡しします『投資信託説明書（交付目論見書）』の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

## 《基準価額の変動要因》

基準価額を変動させる要因として主に以下のリスクがあります。ただし、以下の説明はすべてのリスクを表したものではありません。

株価変動に伴うリスク	株価は、発行企業の業績や市場での需給等の影響を受け変動します。また、発行企業の信用状況にも影響されます。これらの要因により、株価が下落した場合、ファンドの基準価額も下落するおそれがあります。
流動性リスク	実質的な投資対象となる有価証券等の需給、市場に対する相場見通し、経済・金融情勢等の変化や、当該有価証券等が売買される市場の規模や厚み、市場参加者の差異等は、当該有価証券等の流動性に大きく影響します。当該有価証券等の流動性が低下した場合、売買が実行できなくなったり、不利な条件での売買を強いられることとなったり、デリバティブ等の決済の場合に反対売買が困難になったりする可能性があります。その結果、ファンドの基準価額が下落するおそれがあります。
信用リスク	株式の発行企業の財務状況等が悪化し、当該企業が経営不安や倒産等に陥ったときには、当該企業の株価は大きく下落し、投資資金が回収できなくなることもあります。この場合、ファンドの基準価額が下落するおそれがあります。

詳しくは「投資信託説明書（交付目論見書）」等をご覧ください。

# 投資リスク②

## <その他の留意点>

### ■収益分配金に関する留意事項

分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日の基準価額と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

受益者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。

### ■株価変動等のリスクヘッジに関わる留意点

- ・マイルドジャパンでは、株式市場の変動リスクの低減を図るために、マザーファンドを通じて株価指数先物取引（TOPIX先物）の売建等を行いますが、完全に株式市場の変動リスクを排除できるものではありません。
- ・個別銘柄においては、株式市場の変動リスクに加えて、当該銘柄固有のリスク等が存在します。このため株式市場全体が上昇した場合であっても、マイルドジャパンの基準価額は下落することもあります。
- ・また株価指数先物取引（TOPIX先物）等の価格が、理論価格から大きく乖離する場合があります、当該先物価格が理論価格に対して大幅に割高となった場合は、マイルドジャパンでは基準価額の下落要因となります。

### ■クーリング・オフについて

当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。

## 当ファンドの仕組み

運用はファミリーファンド方式で行います。

ファミリーファンド方式とは、投資家の皆様からご投資いただいた資金をまとめてベビーファンドとし、その資金をマザーファンドに投資して、その実質的な運用を行う仕組みです。なお、ベビーファンドから有価証券等に直接投資する場合があります。

2つのファンド間でスイッチングが可能です。

- ※スイッチングによるお買付には、スイッチング手数料がかかります。
- ※スイッチングによる解約の際には、譲渡益に対して課税されます。



詳しくは「投資信託説明書（交付目論見書）」等をご覧ください。

# ファンドの費用 ※大和証券でお申込みの場合

当ファンドのご購入や運用期間中には以下の費用がかかります

## 投資者が直接的に負担する費用

### ●購入時手数料

購入時手数料は、販売会社による商品・投資環境の説明および情報提供、ならびに販売の事務等の対価です。  
購入金額に以下の手数料率（税込）を乗じて得た額とします。 ※購入金額：（購入申込受付日の基準価額／1万口）×購入口数  
※購入時手数料には消費税等相当額がかかります。

購入金額	手数料率（税込）
2,000万円未満	3.24%
2,000万円以上5,000万円未満	2.16%
5,000万円以上1億円未満	1.62%
1億円以上10億円未満	1.08%
10億円以上30億円未満	0.54%
30億円以上	0.108%

### （ご参考）●口数指定で購入する場合

例えば、基準価額10,000円のときに100万口ご購入いただく場合は、次のように計算します。  
購入金額＝（10,000円／1万口）×100万口＝100万円  
購入時手数料＝購入金額（100万円）×3.24%（税込）＝32,400円  
となり、購入金額に購入時手数料を加えた合計額103万2,400円をお支払いいただくこととなります。

### ●金額指定で購入する場合

購入金額に購入時手数料を加えた合計額が指定金額（お支払いいただく金額）となるよう購入口数を計算します。  
例えば、100万円の金額指定で購入する場合、指定金額の100万円の中から購入時手数料（税込）をいただきますので、100万円全額が当該投資信託の購入金額とはなりません。

### ●スイッチング手数料

一律 0.216%（税込）

### ●信託財産留保額

ありません。

## 投資者が信託財産で間接的に負担する費用

### ●運用管理費用（信託報酬）

毎日、信託財産の純資産総額に年率 1.0368%（税抜0.96%）を乗じて得た額とします。  
運用管理費用（信託報酬）は、毎計算期間の最初の6ヵ月終了日および毎計算期末または信託終了のときに、信託財産から支払われます。

〈運用管理費用（信託報酬）の配分〉

委託会社	年率0.46%（税抜）	ファンドの運用等の対価
販売会社	年率0.46%（税抜）	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価
受託会社	年率0.04%（税抜）	運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価

### ●その他の費用・手数料

財務諸表の監査に要する費用、有価証券売買時の売買委託手数料等は信託財産から支払われます。  
※監査報酬の料率等につきましては請求目論見書をご参照ください。監査報酬以外の費用等につきましては、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を示すことができません。

※上記の手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

詳しくは「投資信託説明書（交付目論見書）」等をご覧ください。

# お申込みメモ ※大和証券でお申込みの場合

●信託期間	2016年5月2日～2026年4月27日（約10年）
●購入単位	1,000円以上1円単位（注）または、1,000口以上1口単位。 （注）購入時手数料および購入時手数料にかかる消費税等相当額を含めて、1,000円以上1円単位となります。 ※ただしスイッチングの場合は、1口単位です。
●購入・換金申込受付の中止及び取消し	取引所における取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、ご換金の受付を中止することがあります。
●スイッチング	マイルドジャパンとプレミアジャパンでスイッチングができます。
●購入価額	購入申込受付日の基準価額
●換金価額	換金申込受付日の基準価額。 換金代金は、原則として換金申込受付日から起算して4営業日目からお支払いします。
●決算日	毎年4月26日（休業日の場合は翌営業日）
●収益分配	年1回の決算時に分配を行います。 ※ 分配金再投資コースを選択された場合は、税金を差引いた後自動的に無手数料で再投資されます。
●課税関係	課税上は株式投資信託として取扱われます。公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度の適用対象です。 当ファンドは、配当控除の適用があります。益金不算入制度の適用はありません。 ◇少額投資非課税制度「愛称：NISA（ニーサ）」をご利用の場合、毎年、年間120万円の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得及び譲渡所得が5年間非課税となります。ご利用になれるのは、満20歳以上の方※で、販売会社で非課税口座を開設するなど、一定の条件に該当する方が対象となります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。 ※20歳未満の方を対象とした「ジュニアNISA」もあります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上記は2017年11月末現在のもので、税法が改正された場合等には、内容が変更される場合があります。</li> <li>・ 法人の場合は上記とは異なります。</li> <li>・ 税金の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。</li> </ul>
●委託会社およびその他関係法人	委託会社：大和住銀投信投資顧問株式会社 販売会社：大和証券株式会社 ほか 受託会社：三井住友信託銀行株式会社

詳しくは「投資信託説明書（交付目論見書）」等をご覧ください。